

グルメ漫画はなぜ美味しく感じるのか
～『クッキングパパ』と『美味しんぼ』の比較からの考察～
1531060 内藤圭子（清水ゼミ）

グルメ漫画の中の料理というものはなぜこんなにも美味しくそうなのだろう。グルメ漫画は1970年に創刊された、『突撃ラーメン』（望月三起也）を始まりとして、根強い人気を博し、現在でも高い支持を得ている。グルメ漫画というジャンルが評価されている理由は、作中に出てくる料理が魅力的であるからに違いない。しかし、グルメ漫画はモノクロで色彩を感じる事が出来ない。二次元であるから音、匂い、感触を感じることもできない。それなのに、グルメ漫画は読み続けられている。

先行研究ではグルメ漫画と時代背景の関係などについては論じられてきたが、グルメ漫画の美味しさの表現については論じられていなかった。そこで本稿では『クッキングパパ』と『美味しんぼ』を研究対象として、グルメ漫画の中の料理はなぜ美味しく感じるのかを考察した。その結果、この2つの作品は一見すると両極端な物語に見えるが、料理を狂言回しとしてその周りの人間関係や作中人物の成長などのストーリーを丁寧に描いている共通項があることがわかった。人に根差すストーリーが逆に狂言回しの料理そのものの魅力を伝える原動力となっていたのだ。

○要旨

主にモノクロの視覚的要素によって表現されているにもかかわらず、グルメ漫画で取り上げられる料理は美味しいと読者に認識される。その理由を探るために、典型的グルメ漫画の2作品を内容分析し、料理を狂言回しとして人間関係や作中人物の成長などのストーリーが描かれている共通項を抽出している。そして、その人間関係に根差すストーリーが狂言回しの料理の魅力をも伝える原動力となっていることを明らかにした。

○評価ポイント

グルメ漫画の料理が美味しくそうなのは当たり前だと見過ごさずに、なぜかという問題設定をした点がまず評価できる。さらに、グルメ漫画の歴史を体系的に解き明かし、主要な作品を読み込んだうえで、方向性が異なる典型的な2作品を精緻に内容分析し、そこから共通項を見つけ出し結論に至る流れも説得力を持っている。